5 7

下するなか、木工機械

機 W.

木工機械事業を国際化

ショック、バブル景気 などで日本経済が乱高 指揮をとった。オイル メーカーである同社の 長として老舗木工機械 誉会長)は、5代目社 ワエンタープライズ名 菊川靖之氏(キクカ より藍綬褒章を受章。 降は取締役相談役、名 同社では97年(同9 誉会長。 年)に会長となり、以

木材乾燥技術革新に尽力 幅崎茂氏

> 来の含水率計、材温・ 蔵型木材含水率計、従

別自動温度補正装置内 に販売したほか、樹種

開発を推し進めるな CAD/CAMの機械

在来、金物、2×4、

テムを開発してきた。 トCAD/CAMシス

材の生産を可能にした

点が評価され、200

や割れ、変色の少ない 構造材の乾燥時間短縮

合乾燥機では国産材杉

本木材加工技術協会の 3年(平成15年)に日 することを実現した。 ネルギーコストで製造

特に高周波・蒸気複

度の高い製品を低いエ

自ら各地の製材所を訪 を継承し、木材乾燥機 の普及を進めてきた。 業者の柴豊氏から事業 会長)は、 幅崎茂氏(新柴設備 樹種、製材品の大 新柴設備創

効率良くライン化する 特に木材加工の工程を 会社の業績を着実に

プレカットを発展産業に

ことで改革をもたらし

品の多角化を推進し、 関連事業の国際化と製

2019年(平成31年)4月25日 木曜日

伸ばして同社を無借金 企業とする一方で、人 きさに合わせた乾燥機 を研究。また製材工場

CADは思想」を

業界に貢献した功績に 成3年)には機械製造 と技術を大切にする姿 勢を貫いた。91年(平 K式木材乾燥機を全国 ブ)式の木材乾燥機S 燥できる技術を追求し ユニット(プレハ ド、ソフトを合わせた

るなど、常に乾燥機の た。また、製材会社ご 技術革新を図ってき 友林業とともにSK-MIZDASを開発す 自動歩進システムや住 サーデータによる完全 力変化等の広範なセン 重量のほかに 歪量や圧

合を把握し、ニーズに とに必要となる乾燥度 ることでシェアを拡大 合った乾燥機を提供す に貢献した。業界で 会理事長などを歴任し は、日本木工機械工業 プレカット産業の確立

宮川嘉朗氏(宮川工 宮川嘉朗氏 かせた。 績を伸ばし、同社を無 たことや、社員のやる 械事業を成功させて業 借金の企業に育て上げ 達な同社の社風を根付 気を大切にし、自由闊 また、プレカット機

大型化の流れのなか で、均一に製材品を乾 同社2代目社長として 機会長) は2010年 機中心の販売からハー 指揮をとった。 (平成22年) 11月まで プレカット加工汎用 トイーグル社長)は、 数多くの木造プレカッ ○A□\○A≦登に貢献 祖父江久好氏(ネッ 祖父江久好氏

おいて不可欠となった ど、いまや木造建築に 範囲を拡大。部材のプ 法、規模を問わず、構 大断面、CLTと工 レカット化を推進する 礎、ユニット鉄筋、各 特殊加工、サイディン 造材、羽柄材、合板、 種パネルと加工、入力 、石膏ボード、基 バーカーで一世を風靡



ステム(構造計算、温 性能化にも貢献した。 熱計算など)の開発に より住宅、建築物の高 た。どんな地域でも利 の発展に寄与してき ど様々な製品を開発 て名を馳せた。 用できるバーカーとし し、木材製材・合板業 乾燥機、原木選別機な せ、リングバーカー、 50」を開発。平成時代 ター式バーカー「L にこれをさらに進化さ ラッシュ接着機を市場 テムキッチン扉等のフ 燥機や室内ドア・シス 波の技術で木材人工乾 ニター社長)は、高周 に送り出し、木材・建

構造と内外装の連動性 通じてユーザーを守る 能はその一環。 にくい仕組みの構築を 先んじて開発、提案し 払った。意匠と構造、 ことにも細心の注意を ながら、ミスが起こり するシステムを時代に 場の競争力強化に貢献 信念に、プレカット工 開発に着手し、杉・桧 径用リングバーカーの が問題になるなか、 入り国産材の大径木化 めた。2010年代に 立ち、歩留まりが良く 安価な機械の開発に努 大隅氏は顧客目線に

用大径リング式バーカ

技術協会の林業技術 木材加工賞、日本林業

広葉樹丸太の皮剥きを 行う必要性から、カッ 業会長)は、凍結した 大隅卓也氏(エノ産 大隅卓也氏 しでは、製材、合板下 た。今や同社の製品な -R85RDを開発し 場は成り立たない。 第1回木材利用技術當 年)には日本住宅・木 賞、翌年の4年(同16 材加工技術センターの

高周波技術で木質材料発展に寄与 山本泰司氏(山本ビ 山本泰司氏

賞した。 (林野庁長官賞)を受 山本氏は、高周波発

家具業界などが精 どまらず、 信機の開発・製造にと 給を軌道に乗せた 分野で完成品までの供 木材等の各